



東京教区時報

きょうくニュース

第650号

2025年12月21日

日本聖公会東京教区

港区芝公園3-6-18

編集広報委員会

WEB:<http://nskk.org/tokyo> E-MAIL:comm.tko@nskk.org Phone:03-3433-0987 Fax:03-3433-8678

◇12月の代祷・信施奉獻先

- ▽世界エイズデー（1日）▽野宿生活者支援のため（II）
▽エルサレム教区の難民支援活動のため▽日本聖書協会の働きのため▽難民・移住労働者のため

締切：2026年1月7日（水）17時

問い合わせ先：立教大学教会音楽研究所
music@rikkyo.ac.jp



◇イエス様と歩く コリドーウォーク

回廊を歩く 黙想会

日時：2026年1月12日（月・休）9時～16時半

場所：ナザレの家

申込み・問合せ：kyouikpj@gmail.com

申込み期間：2025年12月15日

～2026年1月9日

参加費：1500円（昼食持参の事）

共催：信仰と生活委員会 共育プロジェクト

ナザレ委員会



▽下町教会グループ 聖書の会

下町以外からのご参加も多数あります。皆様のご参加をお待ちしています。

日時：12月26日（金）10時半

場所：神田キリスト教会（対面）

*マルコによる福音書を少しづつ読み進めています。

▽「韓国と日本の新しい聖歌」—『日本聖公会聖歌集』から

日時：2026年1月10日（土）16時～17時半

場所：立教学院諸聖徒礼拝堂（池袋キャンパス）

講師：キム・ジソン（ソウル神学大学教授）、竹佐古真希（日本基督教団讃美歌委員、オルガニスト）、坂本日菜（作曲家、横浜聖アンデレ教会オルガニスト）、崎山裕子（立教学院オルガニスト）

入場無料／定員200名

申し込みフォーム

<https://forms.gle/HKzbj1fL9EZCMb5B6>

◇立教大学教会音楽研究所

オルガン講座 一個人レッスン形式で一

日時：2026年2月12日（木）～3月19日（木）
開講（毎回木曜日）

場所：立教学院聖パウロ礼拝堂（立教大学新座キャンパス）

講師：佐藤雅枝（立教新座中学校・高等学校オルガニスト、当研究所所員）

定員：4名（受講のみ）*参加費あり

お申し込み／お問い合わせ：立教大学教会音楽研究所 music@rikkyo.ac.jp

今週・来週の予定

12月21日～2026年1月10日

21（日） 降臨節第4主日

22（月） 常置委員会

24（水） 降誕日前夕

25（木） 降誕日

26（金） 合理的配慮ワーキングG（Web）

28（日） 降誕後第1主日

29（月） 教区事務所冬期休業（～1月5日）

2026年1月

1（木） 主イエス命名の日

4（日） 降誕後第2主日

【ガザに届け！ニットでエールを！】

～私たちはガザを支援するためにこのプロジェクトを始めました。一目一目編んでいくと大きな物になるように、少しでもガザに思いを馳せてみませんか。

一人でも多くの参加を願っております。～

香蘭女学校の平和団体「あすらぶ」と手芸部の中高生徒がパレスチナ子どものキャンペーンと協力して、編み物を通じてガザの子供たちの支援を行っています。

かぎ針編みで 18cm×18cm 正方形をつくり、つなぎ合わせてガザへの思いを編み、全国の参加者の作品とつなぎ合わせます。来年 3 月末まで、どなたでも参加可能です。

詳細は教区 HP から、または、Instagram@knit_4gaza 問い合わせ:KNIT4GAZA 実行委員会 メール: koho@ccp-ngo.jp 電話: 03-3953-1393

【教区事務所冬季休業のお知らせ】

12月25日（木・降誕日）、12月29日（月）～2026年1月5日（月）を冬季休業とさせていただきます。

【教区ニュース休刊】

12月28日号、2026年1月4日号 休刊いたします。

「教会活動に関するアンケート」～各教会・礼拝堂から寄せられた声～ # 3

2025.12.19

東京教区合理的配慮ワーキンググループ

～関わり合う教会を目指して～

今年7月から10月までの期間、各教会・礼拝堂で「教会活動に関するアンケート」にご協力をいただきました。アンケートに寄せられた声をできるだけ具体的に皆様と共有するため、不便さに関する声とそれに対する提案を教区ニュースで少しずつ載せていきます。各教会・礼拝堂での更なる話し合いのヒントとなれば幸いです。

今回は、【2】その他の一つ目の質問で、「教会活動や奉仕について、困っていること」に寄せられた声の前半をご紹介します。個人の特定を防ぐため、一部編集しています。

*表記について：合理的配慮ワーキンググループでは「障害」、「障害者」と表記いたします。これは、当事者の方の声から、障害をもって生きる人々の不便さに目を逸らさず、また真の「障害」がどこにあるのかを曖昧にしないという意図によるものです。

◆体の不自由さ、言語、ジェンダーの視点から困っていること

<ハード面>

スロープはあるが、回り道が必要で使いづらい位置にある / 礼拝堂が2階にあり、階段昇降が困難 / 中庭や玄関に段差や傾斜があり、転倒の危険がある / 車椅子の利用スペースが限られている / 土足禁止のため、靴を脱ぐ際に転倒の恐れがある / 補聴器をつけてもお説教が聞き取りにくい、話の速さについていけない / ホールでのプログラム時にマイクの不調がある / 聖具（ろうそくや十字架）が思わぬ場所にあり、白杖でも察知できず危険 / 大量の紙のチラシが配られるが、消化できず無駄に感じる（電子版の活用希望） / 教区会な

レポート配布が遅く、かつ電子版でないため、多言語翻訳（英訳）が間に合わない / 記名簿に名前を書くのが困難（〇をつけるだけ、またはQRコード入力を希望） / 自動翻訳機やユニバーサルトイレなどの設備が不足しているが、資金確保が困難 / 点字や拡大コピーの式文を自教会で用意するのが困難

＜ソフト面＞

LGBTQ+ やセクシャルマイノリティの存在が前提とされていない / 性別二元論に基づいた性役割や集まりが維持されている / 目に見えにくい障害（時間がかかる、ミスをする等）への理解が得られず疲弊する / 「パソコンが使える=何でもできる」と誤解され、読み上げソフトの限界などが理解されにくい / 周囲が騒がしいと、視覚障害者が誰に話しかけていいか分からず孤立する / 隣の人が黙っていなくなると、空気に話しかけてしまう気まずさがある / 障害者への対応について、どう誘導・案内すべきか戸惑ってしまう / 当事者の目線で何が失礼にあたるか分からず、回答に窮する / 新しい聖歌を覚える機会がなく、すぐに歌えない / 信徒の高齢化が進み、対応できる健常者が減っている / 高齢化により活動への参加率が低下している / 耳が聞こえづらい人への対応を現在検討中である

◆体の不自由さ、言語、ジェンダーの視点から困っていることに対する提案

＜ハード面＞

エレベーターを設置する / 可能な限り段差を解消する / スロープを真ん中のアクセスしやすい位置に設置する / 外履きのまま出入りできるスタイルを検討する / マイクの点検をこまめに行い、担当者を明確にする / 難聴者向けのスピーカー付き座席を用意する（当事者への聞き取りを含める） / 英語、韓国語、中国語などの多言語式文を容易に入手できるようにする / 英語での日時案内や表記を取り入れ、外国の方も入りやすくする / 教区レベルで点字や拡大式文を提供・共有してもらう

＜ソフト面＞

「お話を聴く会」や、車椅子の使い方等のワークショップを継続・企画する / 障害のある人が「お客様」ではなく、役員として意思決定に参加できる体制を作る / 子供や若者が、コミュニケーション講座や手話・点字体験を通じて学ぶ機会を作る / 手話を習得する機会を設ける / アンケートに現れない「声にならない声」や「姿」があることを常に意識する / 誰にとっても居心地が良くなるよう、マジョリティもマイノリティも互いの存在を尊重する / 障害をオープンにでき、それを受け入れる関係性（教会の本質）を目指す / 「困っていたらお声がけください」という掲示を出す / 母国語がフランス語の難民グループに対し、英語・フランス語が堪能な人が通訳・翻訳を行うような支援を継続する / 新しい聖歌を練習する機会を作る / あらかじめ誘導や案内に関する情報を共有し、スムーズな対応ができるようにする

◆その他 困っていること

＜ハード面＞

住居が遠いため教会に行くのが難しい / 関わりが持てない / 若い人たちの集まりが遠くで行われていて交流しづらい / 礼拝後に会衆が集まる場所（交流スペース）がない / 委員の役割分担が不明確である / 特定の活動（オルターや奉仕活動）の参加方法や手順が分かりにくい / バザーの献品ルール（クリーニング必須等）が教会ごとに異なりわかりづらい / 北関東教区はまだ婦人会があるが今後はどうなるのか / 連絡網が担当ごとに整備されていない / 郵便物の紙の量が多すぎて困る / 司祭の自筆メッセージで教会を感じられた

が今は印刷物だけになっている / 全教会のメールアドレスリストがあると助かる / グループメールやLINEなどのSNS活用ができるとよい / 名前を忘れてしまうため、名札があると嬉しい

＜ソフト面＞

どんな奉仕があるか分からず、参加できず申し訳ない / 身体的な理由（高齢・病気・体力の限界）で思うように動けず申し訳なく思う / 仕事の都合（日曜多忙）や家庭の事情で、参加したいのに活動しづらいので自宅や、平日にできることはないか / 自主的・積極的な奉仕が「余計なお世話」と言われないか不安 / 一生懸命活動しているのに、文句を言われると辛い / 「聖公会に将来はない」という衰退のムードが蔓延している / 教区・管区レベルでの積極的な指針提示や、抜本的な解決策を求める / 新しく入った人が活動しづらい空気がある / 活動が固定化し、新しい発展が乏しい / 特定の活動が熱心すぎて、他の信徒が「じゃましてはいけない」と遠慮し、礼拝からも足が遠のく / 礼拝堂内での雑談など、静かに祈りたい人への配慮が欠けている（祈りの場を重視してほしい） / 伝統や土台が崩れていくような悲しさ、寂しさを感じている / 世代に偏りがあり、若い信者が増えてほしいという願い / 会衆が受身的になり、奉仕への想い・行動が醸成されにくい

◆その他 困っていることに対する提案

＜ハード面＞

礼拝後の過ごし方として、自由に集まれる「オープンスペース」を設ける（課題：結婚式の控え室など、場所の工面の難しさがある） / 居住地近くの教会に所属する / 学校関係者・卒業生に限られるものでないよう明言する / アコライトや聖歌隊などの奉仕に、学生だけでなく一般会衆も参加できる環境・枠組みを作る / 「一教会一牧師」体制など、司祭と信徒が靈的に交われる持続可能な体制づくり / 青年会やキャンプなど、若い世代に魅力ある具体的な活動の場を作る / 皆に活動や奉仕の機会をもっと提供する

＜ソフト面＞

「教会はひとつの家族」という意識 / お話を聞く会など毎年の企画、今後も知る機会があるとよい / 「知つていて、わかっていて当然」という思い込みを自覚する / 丁寧に説明する努力をする / 若い方が少ないので高齢者ではなく若い方にもお願いしたい / 自分自身の能力不足を感じている人への心理的なフォロー / 車椅子の使い方など、具体的で基本的な対応がわかるワークショップを企画する / 宗教音楽や聖書の勉強会を通じた、知的・靈的な学びの場 / 若い信徒へ教えを徐々に伝えていく / 若い世代との交流を積極的に行い、会衆・学生・指導者が互いに理解を深める / アンケートのフィードバックを丁寧に行い、対話を深める